

各々の立場で 医療人としての 自分の姿を考えて



みみはらグループ

就職式・新入職員オリエンテーション

4月1日・2日・4日の3日間、「みみはらグループ就職式・新入職員オリエンテーション」が開催されました。

当日はお天気にも恵まれ、桜が満開の中、新たに77人の仲間がみみはらグループに加わりまし

た。昨年、一昨年と新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、分散開催をいたしました。3年ぶりに新

入職員全員の集合開催が実現し、はじめは緊張した面持ちで開始しましたが、時間が経つにつれ、和やかな雰囲気の中、行われました。

最初に、みみはらグループの理念や方針、歴史

・ 社会人、医療人としてのマナーや心構えの講義を聞き、これから始まる医療人としての自分の姿を各々の立場で考えることができ

ました。医療安全・感染対策に関する講義では、医療安全に対する知識や、医療従事者として患者や自分自身の安全を守るために、感染予防を正しく理解し、取り組むことが重要であることを学びました。

また本年度は、メンタルヘルスケアを研修に取り入れ、医療人として働き続ける中で自己肯定感やリラクゼーションを取り入れながら、心身ともに健康な生活を送れるようアドバイスをいただきました。



▶アイスブレイクの様子

友の会たまり場とWEBでつなぎ、班会メニューを作成するなど、3日間でも多くの研修を受け、最後に自分自身の今後1年間の目標を立て、オリエンテーションを終了し、各々の職場へ配属されました。今後の活躍が楽しみな新入職員の皆さんです。



みみはらの樹2030

法人と民医連の

理念に立ち返って

2030年にむけた新しい体制が発足しました。10年後をみすえて、森専務理事に抱負を語ってもらいました。

専務理事を務めさせていただいた森です。私が同仁会に入職したのは1999年4月で、前倒産からの経営再建2年目の年でした。この長年の経営課題の克服のタイミングで、任務を引き継がせていただくことになったのも、何かの縁だと感じ、精一杯頑張りたいと思っています。私が専務理事を務めるのは、これから10年間の同仁会の事業構想と計画（みみはらの樹2030）の具体化と実現に取り組む時期です。債務超過という経営の重石を解消したことで、次の10年は様々な選択肢を選び得る状況になりました。幹部のある方は、次の10年について「ワクワクする」とおっしゃいました。私も同感です。そうした状況を生み出してくれた役員、理事の皆さんの奮闘に感謝したいと思います。

一方でそれは、選択する道を過つ可能性を秘めたものとも言えます。その際に、道を過つことなく、みみはら「らしさ」「無差別・平等」の立場を貫くには、私たちの事業が「何のために、誰のために、誰とともに進める」ものであるか、繰り返し法人と民医連の理念に立ち返って確認していく必要があるのだと思います。また、構想と計画が経営体力に見合ったものか、全職員参加のものとなっているかなど、結局は前倒産時に指摘された「3つの乖離」―医療と経営との乖離、地域との乖離、管理と現場との乖離―の視点での確認が必要なのだと思います。



このことを自分自身の肝に銘じ、理事会、職員、友の会の皆さんと議論と実践を形づくっていきたく思います。
 専務理事 森 高志